

動物たちと過ごす時間

りきゆう動物病院
院長 宇田川 洋平

我が家にはシベリアンハスキーが一匹と、元ノラ猫が一匹おります。普段朝起きると、おなかをすかせた猫は、妻が目をあけるとそれを見逃さずご飯が出てくるまで、粘り強くアピールし、ハスキー犬は我々夫婦が朝の支度をしていると、眠そうに後から起きてきます。これが我が家の日常であり、ほぼ、毎日当たり前のように繰り返し、朝、我が家の家族全員と顔を合わせ、全員の健康を確認し、リビンゲでまどろむことに幸せを感じます。

毎日、開業医として同じ建物、ほぼ同じスタッフ、同じような生活パターンを繰り返し、唯一大病院に研修医として出勤する時のみ、少しの変化を感じとれるという生活の中で、時折、いつも有る物が有り、いつも同じ人、動物がいるということが、退屈や閉塞感として感じられてしまうことがあります。しかし、日常患者さんを診察していく中で、残り時間が少ないであろう動物、つまり、進行が早く、転移性の強い腫瘍や、病気の末期の動物に出会うことも少なくありません。彼らは皆、どんな子も、病気で不安、病院が怖いというのも有ると思いますが、ひしと飼い主さんにつかまったり、寄り添っていて、まだ飼い主さんと離れたくない、ずっと一緒に居たいと言っているように見えます。ある患者さんは、朝から意識も全身状態も検査の数値も、どれを見てもいつ亡くなってもおかしくないのに、飼い主さんにすぐにでも会いに来てもらいたかったのですが、飼い主さんも都合があり、午後まで来院できない状況でした。その子は、健康な時は病院スタッフにも尻尾を振って近づいてきて、呼べば目と目をあわせてくれるような子でしたが、さすがに、意識も朦朧として、ただ横になり、時折飼い主さんと呼ぶように鳴くだけでした。ようやく飼い主さんが来院して、面会してもらうと、今まで意識もほとんどなく、上半身も起こせなかったのに、飼い主さんの肩に手をかけ、甘えて鳴いていたのには目を疑いました。状況などを説明し、少し面会に付き添った後、ちよつとの間席をはずしていたら、飼い主さんに呼び戻され、「ちよつと鼻水がすごいみたい。」ということで行ってみたら、本当に静かに呼吸が止まっていました。顔もそつと目を閉じて、眠っているようでした。おそろく、飼い主さんの肩にしがみついている間に、ふつと亡くなったのだと思います。本当に最後のごく短い時間

だけでも、健康な時ほどシヤキツとではないにしろ、本来の意識を取り戻し、そして、ふっと亡くなつてしまった姿が、今まで自分が飼つてきた動物の健康な時から最期の瞬間、今一緒に生活している動物の現在から将来の最期の瞬間までが想像されてしまい、改めて、今ゆっくり単調に流れているように見えている時間が、ずっと続くわけでもなく、ゆっくりでも単調でもないんだらうと考えさせられました。

今、ゆっくりと単調な時間は、動物達、我々夫婦が年老いて病気になる、振り返つてみれば、きつと順調で、幸せで、その時に戻りたいと思うような時間だと思いません。今、三十代半ばの自分から見ても、高校生のころああしていれば、大学生の時こうしていればと思うのに似て、貴重でかけがえのないものだと思います。時間というのは、死という終りがあるから、とても貴重に感じます。犬、猫などは人の四々五倍速く年をとると言われているので、獣医師をしている自分としては、犬猫たちと健康に過ごす時間というのは、本当に限りあるものに見え、動物達が若くて健康な時には、なるべく自分の時間を割いて、一緒に遊んでやり、年をとつて思うままに動けなくなつたら、なるべく一緒にいてやろうと思います。自分の時間に関しても、高校生、大学生には戻れないので、その時、その年齢でしかできないことをしっかりとやろうと思えます。

冬 じよみ

2 月	1 月	12 月	
<p>2 / 15 涅槃会</p>	<p>1 / 1 修正会</p>	<p>12 / 31 除夜の鐘</p> <p>12 / 7 成道会</p>	<p>当山行事</p>
<p>2 / 4 立春 ●雨の中に立春大吉の光あり(高浜虚子)</p> <p>2 / 19 雨水 ●薩埵富士雪縞あらしき 雨水かな(富安風生)</p>	<p>1 / 6 小寒 ●小寒や枯草に舞ふうすほこり (長谷川春草)</p> <p>1 / 20 大寒 ●大寒の大々とした月よかな(一茶)</p>	<p>12 / 7 大雪 ●大雪や茎ばかり掃く 藤落葉(涙人)</p> <p>12 / 22 冬至 ●粥くふも物しりらしき 冬至かな(一茶)</p>	<p>二十四節気</p>
<p>2 / 3 節分</p> <p>2 / 11 建国記念の日</p>	<p>1 / 7 人日の節句 (七草)</p> <p>1 / 12 成人の日</p>	<p>12 / 23 天皇誕生日</p>	<p>祝日等</p>

「こよみ事典」東京美術 参考



◆◆◆冬場に流行する◆◆◆

◆◆◆感染性胃腸炎◆◆◆

◆◆◆ノロウイルスを中心に

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎のことです。

特に11月～3月はノロウイルスやロタウイルスによる胃腸炎が多発する時期で、乳幼児や高齢者は重症化しやすいので注意が必要です。予防で最も重要なのは、しっかりと手洗いです。また、吐物や便を適切に処理して、二次感染を起さないようにすることも大切です。



ながた内科クリニック

院長 永田 宏

乳幼児や高齢者は要注意 感染力強いノロウイルス

冬場の代表的な感染症といえばインフルエンザですが、この時期には胃腸炎を起すウイルスも猛威をふるいます。代表的なウイルスがノロウイルスとロタウイルスです。

特にノロウイルスは、冬場の感染性胃腸炎の原因として圧倒的に多く、小児から高齢者まで幅広い年齢層

で発症します。

ノロウイルスの感染力は非常に強く、感染後24～48時間で、吐き気、おう吐、腹痛、下痢、発熱(37度台)など、強い胃腸炎症状が現れます。

通常2～3日、長くても

数日で回復しますが、乳幼児や高齢者が感染した場合、頻回のおう吐や下痢によって脱水を起こし、重症化することがありますので、十分な注意が必要です。

また、高齢者では、おう吐物を誤嚥して肺炎を起したり、気道に詰まらせる心配もあります。

なお、ロタウイルスによる胃腸炎は、5歳までの子どもがほとんどです。

脱水を防ぐ対処が第一 電解質も補給します

特別な治療法はなく、対症療法で症状がおさまるのを待ちますが、脱水を防ぐことが第一です。

おう吐や下痢では、水分だけでなく電解質も失われるので、電解質の入った経口補水液が勧められます。おう吐が止まったら、水分を少しずつ頻回にとらせるようにします。確実に水分がとれるようになってから、おかゆなどの消化のよいものから食事を再開します。

小さな子どもが頻回におう吐や下痢を繰り返し、ぐったりしたり、尿が出ない、唇や口の中が乾燥しているなどの脱水を疑わせる症状

があるときは早めに病院を受診してください。状態によつては点滴が必要な場合もあります。

感染経路を理解して 予防に努めましょう

ノロウイルスの感染経路は、
①ウイルスに汚染された飲食物を摂取する、②ウイルスのついたものを触り、手から口、体内へと入る、③おう吐物からウイルスが飛び散る、④おう吐物が乾燥して空气中に舞い、それを吸い込む、などがあります。飲食物からの感染では、カキなどの二枚貝の生食も要注意です。カキは冬の味覚ですが、ノロウイルス感染が流行した後の生食は非常に危険です。加熱すれば（85℃以上で1分以上）ウイ

ルスは死滅しますので、中心部まで十分に加熱して食べましょう。

生ものを調理するまな板や包丁、調理器具は熱湯で消毒しましょう。二枚貝以外でも、生で食べる食品は、流水ですっきりと洗ってください。

日常の最も重要な予防対策は入念な手洗いと確実な汚物処理です。ノロウイルスにはアルコール消毒はききません。「調理の前」「トイレの後」「汚物を処理した後」「おむつ交換の後」などには、しっかりと手を洗ってください。おう吐や下痢による汚物は確実に処理してください。おう吐したら、使い捨てのマスク、手袋、エプロンを使用し、布やペーパータオルで汚れを拭き取り、拭き取ります。おう吐した床やカーペット、

畳、周囲の家具などは、家庭用塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）を適宜希釈して、ペーパータオルで覆ったり、浸すようにして拭きます。

使用した布やペーパータオルはビニール袋に入れて処分し、汚れた衣類は家庭用塩素系漂白剤か熱湯で消毒してから洗濯します。処理後は十分に手を洗ってください。

下痢があるときは、トイレの消毒も欠かせません。トイレの床、ドアノブ、便座、手が触れるところを希釈した家庭用塩素系漂白剤で拭きます。赤ちゃんが下痢をして感染が疑われたら、おむつ交換時に手にウイルスが付かないように十分注意してください。

症状が回復して下痢が止まっても、2〜3週間は便にウイルスが排泄され、二次感染を起こす可能性がありますので、油断せず対処してください。

おとなでは感染しても発症しないことがありますが（顕性感染）、感染力は変わりません。家庭、学校、職場など、いつでも、どこでも、手洗いを励行しましょう。



おう吐物は想像以上に遠くまで飛び散っています。家庭用塩素系漂白剤を薄めて広い範囲を消毒しましょう。



法 要

「成道会」じょうどうかい 法要が12月7日朝
厳修の予定です。



(25年度撮影)

見 学

「セピアペットケアスクール」の
皆さんが見学に訪れました。



ご朱印
始めました。

(府中本山のみ)



●本山：東京都府中市浅間町2-15-1 〒183-0001
TEL.042-365-7676 FAX.042-336-3888
URL <http://www.jikeiin.jp>

●足立別院：東京都足立区加平1-14-3 〒121-0055
TEL.03-3628-7676 FAX.03-3628-7679

編 集 後 記

日の春を

さすがに鶴の

歩み哉 (宝井其角)

「日の春」は歳の始めを祝って
言うことばです。元旦の朝日をあ
びて鶴がゆったりと歩いているそ
の姿がいかに初春にふさわしい
ものである。

今では、このような光景は見ら
れず、鶴も「絶滅危惧種指定」と
なってしまうました…。

未筆乍、皆様のご健勝とご活躍
を祈念申し上げます。

合 掌

慈 恵 冬季号 No.49

平成二十六年十二月一日 発行

発行者 永 田 恵 堂

編集者 長 岡 天 佑

発行所 一八三〇〇〇一

府中市浅間町二十五十一
宗教法人慈恵院 編集部

〇四二一三六五七七六

印刷所 山一印刷有限公司

府中市浅間町三十四一九
〇四二一三六一一五二二